



東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 160 Jan. 1, 2020

発行 公益社団法人
日本山岳会東海支部

〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMCLビル

電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924

郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」

銀行口座 三菱UFJ銀行 覚王山支店

普通1222073 「日本山岳会東海支部」

編集 星 一男

印刷 (株) 浅井隆文社



カナディアンロッッキー クトニー スタンレーウォールを登る 関連記事本文P11 撮影 山田利行

目次

○年頭のご挨拶	高橋玲司	2	○トピックス	16
○支部創立60周年記念事業 の概要	尾上 昇	3	○東海支部の蔵書からの一冊	川瀬真知子 17
○第11回森の音楽祭 2019を振り返って	毛利邦男	5	○東海岳人列伝⑬	西山秀夫 18
○ゴザフェス2019	喜田 陸	6	○リレーエッセイ⑨	鈴木慎吾 20
○全国森づくり協議会	和田豊司	7	○委員会報告	
○朝明ミーティング2019	金谷正起	8	○山行/技術向上/東海Youth	21
○ボランティア委員会2019年 を振り返って	前田隆久	10	○同好会コーナー	22
○カナディアンロッッキーの登攀	山田利行	11	○スケッチクラブ	
○橋村一豊氏追悼		12	○60山ラリー経過報告	23
○東海俳壇	西山秀夫	14	○支部友コーナー	金谷正起 24
○猿投の森・山桜フィールド	井藤恵美子	15	○会務報告	毛利邦男 25
			○ルーム日誌・会員異動	毛利邦男 28
			○INFORMATION	29
			○編集後記	星 一男

年 頭 の ご 挨拶

支 部 長 高橋 玲司

新年あけましておめでとうございます。
新しい年を迎え、皆様ますますご健勝のこと
とお喜び申し上げます。

さて、昨年の一年間を振り返りますと、3
年目を迎えました登山学校は、66名の参加
をいただき、「自立した登山」をめざし活動
されています。

今年度は、登山学校から新しく仲間を迎え
入れる年度になると考えています。学校の目
的は、自分たちで行ける能力を作るとともに
ツアーでもないガイドでもない、仲間とコミ
ュニティを作り、山岳会の楽しさを感じてい
ただく事です。

また、将来の山岳会員へなっていただける
方々へのアプローチとしては大変素晴らしい
取り組みだと感じます。一方で講師の負担増
も意見として出ており、講師の育成と講師間
のスキルアップの向上の研修や事故への対応、
連絡体制の整備など支部として取り組んでい
かなければなりません。

11回を迎えた森の音楽祭も、トヨタ自動車
合唱部と東海学園のオーケストラのコラボが
大成功に終わり、一般市民はじめ多くの方々
に喜んでいただきました。しかし高齢化が進
む猿投の森づくりの会などへ準備等の負担が
かかるとの意見もあり、今後支部全体で取り
組まなければならないと思います。

ボランティア委員会においては、スペシャ
ルオリンピックス日本・愛知より18年にわた
る支援登山の功を労い表彰を受けるなど、社
会貢献の実績も大であります。

昨年は支部の活性化を図るべく、各委員会
同好会の紹介を纏めた委員会同好会ガイドを
作成させていただきました。全委員会・同好
会に於いては総会后に活動内容の紹介をして
活発にPRしていただきました。

支部員数354名支部友96名という組織
の大きさ故の東海支部が抱えるフットワーク
の課題は、東海支部の各委員会の委員長さん
よりの伝達でカバーしています。各委員会の
連携と全支部員の委員会加入が支部活動を
楽しくしていきます。



今後、全支部員の皆さんは、いずれかの委
員会同好会に属してもらい、老若男女が一体
となり事業活動を通じて、登山人生の中で東
海支部での支部ライフを楽しまれると良いと
思います。

全国の支部の方々とお話しさせていただく
と、もっと支部間の交流を盛んにしたいと
のお話を多くいただきます。そういった他支部
との交流事業も、支部ライフの活性化には重
要ではないでしょうか。

また、昨年より60周年記念事業がスター
トしました。最初にスタートした60山ラリ
ーには、会員各位に積極的に参加をいただき
たいところです。国内、国外の事業が今後ス
タートし、2021年の記念の年まで皆さん
のパワーで楽しく成功裏に終わる様にご協力
いただきたいと思います。

最後になりましたが、近年社会通念として
法令遵守意識は常識です。山登りも無関係で
はありません。登山活動に関して法令を順守
する事はもとより、計画書の作成提出（警察
と山岳会）は当たり前のものであります。安全登山
を遂行し指導して行く事は、山岳会の大きな
責務となっています。どうか皆さん、今年も
安全には最大限配慮して活躍される事と、東
海支部が益々発展する事を祈念申し上げます
と、年頭のご挨拶といたします。

支部創立60周年記念事業の概要

実行委員長 尾上 昇

はじめに

日本山岳会東海支部が設立されたのは、1961年(昭和36年)4月25日である。現在の東海支部は、全国に数多ある日本山岳会の支部の中でも、最も活性化している支部として高い評価を得ている。さらには、支部員、支部友の合計人数も450名を超え、名実共に日本山岳会を代表する支部の一つにも数えられている。

しかし、今日に至るまでの60年間は、決して順調な歩みを続けてきたわけではない。支部解散の危機に陥った時期もあった。紆余曲折の60年であったと言えよう。

この東海支部が来たる2021年(令和3年)で創立60周年を迎える。支部では、この60周年を記念して実行委員会を設け様々な記念事業の実施を企画している。

そのコンセプトは、「創立60周年を寿ぎ、新たな歴史を刻む礎の年と位置付け、全支部員、支部友が参画、参加のもとで記念事業を展開する」である。

現時点では、一部の記念事業(60山ラリー)を除いては、詳細が決まっていないので、ここではその概要を述べさせてもらう。

記念事業の内容は、大きく次の4つの部門に分けられる。1. 祝賀会 2. 国内事業 3. 海外事業 4. 記念出版である。もう一つプラスワンとして、この年の日本山岳会全国支部懇談会を東海支部が主幹することになったので、冠に東海支部創立60周年記念を付した全国支部懇談会の実施が決まった。

以下その概略を記す。

1. 祝賀会

期日 2021年5月22日(土)

期日のみ決定。内容、場所は未定。祝賀会(記念式典及び懇親会)と併せて通常総会も行うことが決まっている。

2. 国内事業

国内事業は、現在60山ラリー、60山同日登山、60周年記念音楽祭(猿投の森)等が企画されている。この内60山ラリーは、長期に亘ることから既に昨年よりスタートしている。この60山ラリーの内容は、コースが

複数設定してあるが、その中の一つは、誰でもが容易にチャレンジ出来るコースになっているので、是非多くの支部員、支部友の参加を望んでいる。それ以外の行事は、当該年度の実施を予定している。

3. 海外事業

(1) 海外登山

現在、中高年を対象としたインド・ヒマラヤ登山と青年層の支部員が主となってヒマラヤ登山が企画されている。又、東海学生山岳連盟を中心として日韓親善友好登山隊の派遣も検討されている。

(2) 海外トレッキング

ネパール、台湾、韓国、カナダなどの山岳エリアにトレッキングや登山を計画している。この企画には、是非多勢の支部員、支部友各位の参加を期待している。

4. 記念出版

60周年を記念して東海山岳12号、支部報合本版、インド・ヒマラヤ改訂版の出版を予定している。また、支部のアーカイブのデジタル化も検討されている。

5. 全国支部懇談会

毎年各支部が持ち回りで主管担当する全国支部懇談会。2021年は、東海支部の主管での開催が決まった。支部60周年の記念の年に当たることから、東海支部創立60周年記念全国支部懇談会として実施する。

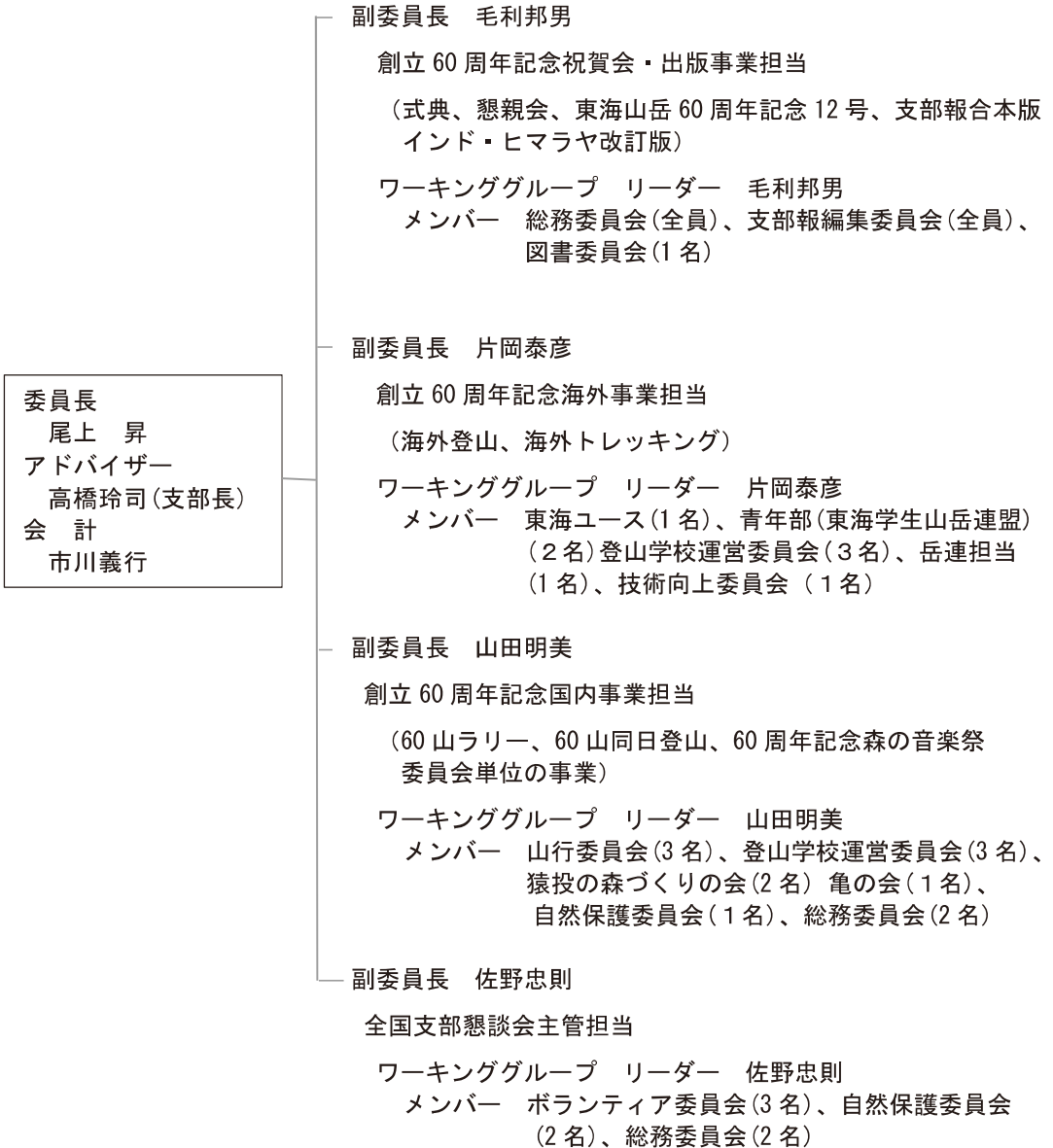
この支部懇談会は、全国から山岳会員およそ200名が集い懇談の他、翌日記念登山を予定している。

6. その他

60周年記念事業ではないが、来年は、1970年に東海支部が送ったマカルー(8463m)登山隊の50周年の記念の年に当たる。この50周年を記念して2020年5月23日(土)に通常総会と兼ねて祝賀会を開催する。



東海支部創立60周年記念事業
実行委員会の構成



※ワーキンググループのメンバーは、各委員会から推選する。
 ※各委員会委員長は、推薦者名をワーキンググループリーダー
 に届け出ること。

第11回森の音楽祭2019を振り返って

森の音楽祭実行委員会 毛利邦男

去る10月26日(土)に第11回森の音楽祭2019を開催した。今年の音楽祭は晴天のもと開催することが出来たが前日の準備は雨の中での作業となった。音楽祭開催の為会場並びに林道整備に今年も3日間を費やした。整備作業は猿投の森づくりの方々の指導の下、たくさんの支部友ならびに支部員の皆さんの参加を頂き行った。参加していただいた方々に改めて感謝申し上げる。

音楽祭第1部は高橋支部長ならびに来賓の公益社団法人緑化推進機構前川常務理事の御挨拶のあとトヨタ自動車合唱団によるア・カペラ演奏で始まった。演奏曲目は①Amazing Grace ②小さい秋みつけた ③夏の思い出 ④遠き山に日は落ちて ⑤いつかある日 ⑥見あげてごらん夜の星をの6曲。美しい歌声を披露していただいた。



トヨタ自動車合唱団のア・カペラ

つづいて、東海学園交響楽団の皆さんによってベートーヴェン作曲交響曲第5番ハ短調作品67『運命』が演奏された。静かな森の中、川のせせらぎ、小鳥のさえずりを聞きながらの若さあふれる演奏を楽しんで頂いた。演奏後、花束贈呈がおわり、恒例の「雪山讃歌」である。今年はトヨタ自動車合唱団の皆さんに合唱指導をいただき、東海学園交響楽団の伴奏で参加者全員の大合唱となり第1部の演奏会は終了。

昼食の後の第2部は87名が参加した自然観察会が8つのコースに分かれて実施、ハイキングは山頂を目指した4つのコースと沢歩き体験の5コースに分かれ合計45名の参加を得て行われた。



東海学園交響楽団の演奏

緑推の前川常務理事からの御挨拶は、緑推の果たす役割が時代と共に変わってきているとのお話で興味深いものであった。植林事業により国土緑化運動を推進し、植林された杉の木やヒノキにより禿山はほとんどなくなった。昨今薪を使うこともなくなり、木造の家も少なくなり、育った杉やヒノキの需要が少なく、これ以上の植林は不要となってきた。一方、植林された樹木を放置すると、大きくなりすぎた木は寿命が来ると朽ちる過程で酸素を吸って二酸化炭素を放出し、よって、地球温暖化につながるという事ともなるので、これからは山及び森の手入れが重要となること。緑推は、環境の緑化をはかり、もって心豊かな国民生活の実現、日本の文化的発展、さらには地球環境の保全に寄与すること及び国際貢献を目的とする公益法人であることから、今後は山の手入れに力を入れていきたいとのお話であった。

緑推のこれからの活動目標が正に猿投の森づくりの会の現在の活動を指していることに意を強くしたところである。



自然観察会

御在所フェスティバル(GOZA FES) 2019

東海学生山岳連盟委員長 喜田 陸

今年も皆さまから温かいご支援をいただき、日本山岳会東海支部 東海学生山岳連盟主催で8月31日・9月1日に御在所岳・藤内小屋にて御在所フェスティバル(GOZA-FES)を開催することができた。東海学生山岳連盟は2009年11月に再発足し、東海地区の登山を行う学生が運営している団体である。今年で10回目という節目を迎えたGOZA-FESは、毎年夏に全国の山好きな大学生に呼び掛けて一同に会し、山登りやクライミング、夜の盛大な親睦会によって親睦を深めるというイベントである。

本年度は、年初めから雨天が多く前年度と同様に当日の雨天が心配されたが、幸いにも天候に恵まれ予定通り開催することができた。しかし、参加者は前年度より少ない20名ほどになってしまった。

1日目は、荷揚げから体験クライミングに夜は宴の予定である。荷揚げでは、前年度はなかったお世話になる藤内小屋の道具(木臼、エアコン、ストーブ)があった。中でもストーブは、何kgあったのかわからないが6人がかりでやっと持てるほどであり、9時より始まった荷揚げは、午前中を使いようやく運びきる事ができた。結果として、参加者全員参加の荷揚げは親睦を深める大きなイベントとなり良かったと思う。その後は、東海学生山岳連盟顧問の高橋支部長をガイドにお願いし、一の壁にて体験クライミングを行った。初めてクライミングを体験する人は不安と緊張から強張った顔となっていたが、登り切った時には達成感から笑顔となっていた。夜の宴の際は少ない人数ながらも日中の連係と体験活動のおかげもあり、恒例のお楽しみイベントでは各大学のたくさんの笑顔が見られ、笑い声が響くこととなった。

2日目は、国見尾根・前尾根・中尾根に分かれて山頂を目指した。本年度は、クライミングルートの希望者が多く、全員の顔を山頂で見ることではできなかったが、最終イベントである山頂集合では疲れた顔を見せながらも各ルートの隊の仲も深まり、大きな達成感を得た事の喜びが笑顔から溢れ出ていた。

本年度のGOZA-FESは参加人数こそ少なかった



2日目、御在所山頂にて

たものの、東海だけでなく日本各地から集まった様々な仲間との盛り上がりは例年と変わらず、楽しく多くの方が交わる良い機会であったと思う。このような機会のために毎年ご支援をくださっている藤内小屋の方々、高橋支部長をはじめとした日本山岳会東海支部の方々にはこの場を借りて多大なる感謝をするとともに、来年もまたその翌年もGOZA-FESが続くようにしたいと思っている。

参加大学: 大同大学、名古屋大学、南山大学、愛知学院大学、神奈川大学、同志社大学、名古屋学院大学、東京経済大学



参加者でストーブを荷揚げ

第10回日本山岳会・全国森づくり連絡協議会を開催

猿投の森づくりの会代表 和田豊司

日本山岳会では全国で森づくりを行っている。自然保護委員会の活動の一環として高尾で森づくりが始まったのは2000年のことである。猿投で東海支部が森づくりを始めたのは2004年、その後宮崎、広島、関西、京滋、岐阜、福井、石川など全国に森づくりの会が広まった。相互啓発を目的に高尾の森づくりの会が中心になって全国森づくり協議会が結成され第9回までは毎年のように開催されていた。ここ数年途絶えていたのを再開し第10回として東海支部が幹事役となって東京大学生態水文学研究所(瀬戸市北白坂町)の研修施設で行った。

参加者は5支部34名、古野JAC会長、当支部からは高橋支部長が参加した。

2019年10月5日(土)は研究所助教授の田中延亮氏による基調講演「尾張東部丘陵の森と水の100年の変遷」から始まった。瀬戸の山(猿投山周辺)が禿山だった時代を経て緑に覆われた現在まで100年余の川の流量、降水量、気象データ等から豪雨時の森の防災機能や名古屋市と比較した気候変動(温暖化)の違いなど実測データに基づいた報告は、森づくりに関わる参加者には非常に参考になった。

今回は森に生息する動物の観察報告が高尾の森づくりの会と猿投の森づくりの会からあり、特に高尾ではシカの食害が進行するのはとのデータが示された。各支部の報告では森づくりが沈滞気味である印象を受けた。

翌10月6日(日)は演習林の見学の後、我々が演習林で間伐している現場の人工林で間伐の手順を説明した。100m²の山林に生えてい

る本数、直径、樹高を計測し最適な間伐率や間伐本数を算出したのち、伐倒する木をマーキングしていく作業を猿投の森づくりの会・人工林グループが行った。

その後、猿投の森(県有林やまじの森)に移り自然観察道から山桜フィールド、モニタリング1000(環境省委託事業、自然保護委員会)観察地、山桜コースなどを見学した。参加者は山桜の巨木に感嘆しつつ散会した。



100年前の尾張東部丘陵



現在の尾張東部丘陵

第17回東海岳人写真展「山と自然のパフォーマンス」

作品募集中 締め切り迫る！

この作品展は隔年で開催していますが、毎回2~3千人の市民の方が会場を訪れて鑑賞されています。日頃の登山の中で出会った美しい景色や感動した瞬間を写し撮った作品を、ふるってご応募ください。高級なカメラで撮った写真だけでなく、コンパクトデジタルカメラやスマートフォンで撮影した写真でも大丈夫です。お待ちしています。支部員、支部友会員以外でも、猿投の森づくり会員、東海Youth、東海学生連盟、支部OBの方も応募できます。

開催期間は、2020年3月17日(火)~22日(日)で会場は、名古屋市中区市民ギャラリー栄8階第9・10展示室にて開催します。応募期間は、令和2年1月15日(水)まで。

詳細は作品募集の要領を参照、または写真展実行委員会まで連絡ください。

yamauchi@orihime.ne.jp

写真展実行委員会 山内 薫

支部友会・朝明ミーティング開催

支部友委員会 金谷正起

支部友委員会第37回朝明ミーティングが令和元年10月5日(土)～6日(日)に開催された。参加者は87名(男性49名、女性38名)であった。1日目の5日(土)は講演と座学・実技講習を学んだのち、豪華BBQの夕食とキャンプファイヤーを楽しんだ。2日目の6日(日)は分散登山というスケジュールで行われた。

1日目 Aロッジ食堂にて

開会式(10:00～) 司会:金谷正起

講演(10:30～)

「リーダーシップ論パートⅡ」

講師:元日本山岳会会長、支部友委員長
尾上 昇氏



尾上委員長による講演

昼食後

実技講習(13:00～) 広場にて

「山での救急対処法 ファーストエイド」

講師:菰野レスキュー 一隊(菰野消防署)



菰野レスキュー隊による講習

座学講習(14:50～) Aロッジ食堂にて

「登山栄養学」

講師:日本登山医学会 認定国際山岳医
三浦 裕先生

翌日の分散登山の説明と検討(16:00～)
(各パーティ毎)

夕食 豪華BBQ

(17:00～)

高橋支部長の開始の挨拶、滝根正幹山岳ガイドの乾杯で始まりました。90名の食材は奥山千佳さんと水野さん熊谷さんの三人によって運ば



三浦 裕講師

れ、奥山シェフからのレシピ説明を受けて豪華な料理を各パーティーで楽しんだ。



キャンプファイヤー(19:30～)

山の神(尾上委員長)が登場!新人の皆さんがたき火に点火して始まった。

バイオリン磯部、ギター田中の伴奏付きで大声で歌い、楽しいゲームで大いに盛り上がり21時に終了した。



尾上委員長扮する火の神登場(右)

2日目

6:00 起床 7:00 朝食

分散登山 (8:00~)

登山学校に所属しない26名の支部友会員は4パーティに分かれて分散登山。

第1パーティ ☆☆

参加者(8名) CL金谷正起 SL水野猛志 岩月邦文 鈴木至 南千恵子 松尾久美子
朝明茶屋7:50⇒登山口8:06 旧千種街道⇒ブナ清水分岐9:15/9:25⇒ブナ清水9:50/10:17⇒腰越峠分岐10:50⇒青岳11:07⇒県境尾根分岐・きのこ岩11:15/11:50⇒ブナ清水分岐11:56⇒腰越峠 12:45⇒ハライド13:03/13:15⇒朝明茶屋14:20

(歩行時間 5時間30分)

第2パーティ ☆☆

参加者(6名) CL: 田中進 SL: 近藤政仁 奥山千佳 高岡達朗 波多野哲也 竹本 美香
朝明ヒュッテ7:50⇒中尾根登山口8:00⇒鳴滝コバ9:20⇒釈迦白毫10:10⇒頂上10:50⇒猫岳12:05⇒白滝谷分岐⇒羽鳥峰13:25⇒朝明ヒュッテ(14:40)

(歩行時間: 5時間10分)

第3パーティ ☆

参加者(6名) CL: 村瀬恭平 SL: 奥野明美 下田正美 山本智彦 阿部正美 丸尾松義
7:05 朝明茶屋 ~7:20伊勢谷小屋 ~8:30ブナ清水分岐8:30 ~ 8:40根の平峠~10:07 県境三差路10:13 ~10:17キノコ岩(昼食) 10:58 ~11:39 ブナ清水 ~12:20ブナ清水分岐~13:35 伊勢谷小屋 ~13:50 朝明茶屋

(歩行時間: 5時間19分)

第4パーティ ☆

参加者(6名) L.尾上昇 SL熊谷美喜子 加藤俊行 勅使河原佳孝 近藤美保 小幡みさ子
朝明ヒュッテ(7:45)→北東尾根取り付き(8:15)→ブナ清水(10:27/10:40)→青岳(11:20/11:50)→根の平峠(13:04)→ブナ清水登山口(14:02)→朝明ヒュッテ(14:15)

登山学校の分散登山

登山学校は1A~1D、2A~2E、3Aの10チーム63名が各パーティに分かれて登山を行った。

初級(1学年)

1-A: 参加者(9名) CL 榊 将美 SL 鬼頭則俊、大関真耶 山名: ハライド~ブナ清水

1-B: 参加者(8名) CL 石田伸郎 SL 宮田信治 山名: 釈迦ヶ岳

1-C: 参加者(5名) CL 石田文男 SL 磯部 隆山名: 御在所山

1-D: 参加者(6名) CL 吉田俊紀 SL 浅井正行、飯島実千代 山名: 釈迦ヶ岳



初級クラス(1学年)で釈迦ヶ岳にて

中級(2学年)

2-A: 参加者(7名) CL 今津英一朗 SL 遠藤ちさと 山名: 青岳・ハライド

2-B: 参加者(8名) CL 岡本英俊 SL 杉本正博 山名: 鎌ヶ岳

2-C: 参加者(6名) CL 今津英一朗 SL 水野由美 山名: 青岳・ハライド(2Aと合同)

2-D: 参加者(8名) CL 林康太郎 SL 小林智佐 山名: 御在所山(岩場訓練)

2-E: 参加者(5名) CL 鈴木慎吾 SL 平田文興 山行: 御在所山

上級(3学年)

3-A: 参加者(10名) CL 瀧根正幹 SL 星 一男 栗木洋明、志水龍雄 場所: 朝明溪谷(実技講習)



上級クラス(3学年)の滝根講師による実技指導

2019 年を振り返り、さら到来年に向けて

ボランティア委員会委員長 前田隆久

2019年はボランティア委員会にとって充実した一年だった。第一に、ここ数年の傾向だが委員会行事に対する理解者が増え、支援者の層が厚くなった。何よりも嬉しいのは、初参加していただいた方に「いい経験をした、楽しかった」と言っていたり、委員会への入会、行事参加へのリピーターに繋がっている事だ。ボランティア登山を義務としてではなく、登山弱者と一緒に楽しんで登山していただいている姿に、この委員会の目指すところがある。

ボランティア登山は誰かのためだけではなく、自分の登山の幅を広げるため、新しい登山の喜びを見つけるため、これからも多くの方に参加していただきたい。

行事に関しては、今年も年二回の試験観察中の少年との補導委託登山が二年目に入り(春は雨天中止)軌道に乗ってきた。当初、慎重だった家庭裁判所も、その成果を評価して下さり、信頼に基づく良好な関係を築きつつある。

その他の行事としては、恒例の一般公募による視覚障がい者対象のブラインド登山が春、秋の二回、支部会員の視覚障がい者対象のブラインド登山が年数回、知的障がい者対象のSON支援登山が春に、幼稚園児対象の登山が秋に二回行われた。

全国に視覚障がい者対象の登山大会はいくつかあるが、多くは会員制であり当支部のようない、一般公募による登山は少ない。反面、



親と子の登山教室IN尾高山



ブラインド登山IN鳩吹山

参加者の力量、障がいの度合いにもバラツキがあり、実施に当たり難しい面もあるが、登山を一人でも多くの障がいのある方に経験していただくためには、困難だが全ての人に開放していくのが原則あるべき姿だと思う。

さて、新しい2020年に向けてやっていきたい事がある、ここ数年の課題だが、次のような事に取り組みたい。ボランティア登山は、山自体は難しい山を選ばないがリスクはついてまわる。参加人数も多く、障がい者の方に登山初参加の人も多く、当然対象者の力量はまちまちで何かあった時の対応は普通の登山よりも難しい。支援者の人数と、若い力に頼る部分が多い。今までも東海学生山岳連盟の学生のみなさんにはずいぶん助けられてきた。今後この課題を解決するための一つの方法として、大学・企業のボランティアサークル、アウトドアサークルとの関係を模索出来ないかと考えている。もちろん、主体は東海支部ボランティア委員会だが、支援の輪はもっと広がるはずだ。その中から、東海支部に入会していただく方がいれば更に長い活動が続けられる。

2003年に委員会として承認されたボランティア委員会は17年目に入る。先輩たちの思いを引き継ぎ、今後も長く継続できるように考えていきたい。

カナダディアンロッキー

支部員 山田利行

春に計画し、東海支部の支援を頂いていた「アルパインエクスプレス」は残念ながら壁に触れることもなく、あっけなく終わった。計画期間中はカナディアンロッキー全域が今までにない天候不順に見舞われ、数少ない晴天周期を狙い、目標であった「ホワイトホーンマウンテン東壁」の初登攀と標高差2200mに及ぶ「マウントロブソン・エンペラーフェース」の再登を目指した。が、ホワイトホーンマウンテンはガスに包まれ山の全容すら見せてはくれなかった（ホワイトホーンマウンテンとマウントロブソンは同山域で向かい合っていて鎮座している）。

気を取り直し、山域の違うハウズピーク東壁に目的を変え、準備をしていると今度は世界的クライマーであるデービットラマら3人がハウズピーク東壁にて頂上を踏んだ後、下山中に雪崩遭難したというニュースが飛び込み、山域が入山禁止となってしまう。

まだいくつか山の候補はあったものの、週間天気予報で2日以上晴れる周期がなく山に入るチャンスは訪れず計画は終わった。人間の力は自然には勝てない。それを痛感した年であった。

2019年のアルパインクライミング

前述した2019年度一番の目標が失敗に終わってしまい、シーズン全体で見れば残念な年であったことは否めない。しかし、そのトレーニングとしてロッキーで登りこんだ日々はとても充実していたと総括できる。2018年の11月に日本からカナダに戻り、ほぼ毎週末山へ通い自身の技術向上そして数少ないアルパインクライミングのパートナーと過ごした日々は、素晴らしく楽しいものであった。

特にトレーニング終盤に同じく東海支部員の菊池と一緒に登ったスタンレーヘッドウォールにある「The Day After les Vacances de Monsieur Hulot (M7, WI5, 220m) (以下Hulot)」という長ったらしい名前のルートの登攀はそれをよく形容している。スタンレーヘッドウォールは壁全体が垂壁かそれ以上の傾斜で20本弱のミックス、アイ

スクライミングルートがひしめく上級者向けのエリアである。その傾斜故、多くのルートがボルトに頼るスポーツ的な要素が強いのに対して私たちの登ったHulotはノーボルト、トラッドギアとアイススクリュエーだけで登るともアルパイン要素の高いルートである。私自身このルートを登ったのは2回目目で4年ぶりの再登であった。グレード的に5.9、M6、M7、M6、WI5、WI5と続く200mの壁を登ってカナダに移住した初年度からの成長を強く感じることができた。4年前はこの壁に取り付くことがとても怖くて、クライミングも随分不安定だったと記憶している。しかし、今回は一つ一つムーブを確認しながら、冷静にそして安定して登ることができた。今回のような自分の技術や経験を確認する意味では非常に意義がある行為だと知れたのは大きな収穫であった。

2020年の展望

2013年に東海学生山岳連盟でヒマラヤ遠征に行ってから早、6年が経とうとしている。あの時は頂上までわずか50mの所で敗退だった。学生の時に比べ、格段にクライミングの技術も上がり、ガイドという職業を通じて山の安全係数も高くなったと感じる。そろそろビックマウンテンに挑戦してもいいんじゃないか。そんな想いが日々強くなってきた。2020年もカナダの厳しい壁を登り込み、山の機嫌を伺いながら、険しいルートから山の頂上を狙っていきたいと思っている。



スタンレーヘッドウォールの登攀

追 悼

橋村一豊さん追憶

— 橋村さんと東海支部と私 —

尾上 昇

日本登山界の伝説の男の一人として名を馳せた橋村一豊さんが身罷った。橋村さんの伝説的な男たる所以は、その若き頃に打ち立てた輝かしい数々の積雪期の初登攀の記録にある。主に成城大学山岳部の在籍中に残した記録である。年代でいうと、1960年をはさむ前後である。

この頃の登山界は、積雪期の岩場の初登攀争いが熾烈であった。毎年、穂高岳や剣岳、谷川岳などの岩場に先を争って初登攀の記録が次々と刻まれていたのである。

これらのほとんどは、社会人山岳会に所属する登山家達によって成し遂げられていた。その中であって大学勢としては、橋村さんの率いる成城大学山岳部が一人気を吐いていた。

橋村さんの際立つ記録としては、何といても1959年から1960年にかけての正月の滝谷での登攀であろう。C沢右俣奥壁とドーム正面壁の初登攀である。橋村さんは、これ以外にも剣岳東面や谷川岳、北岳バットレスにも積雪期の初登攀の記録やその他の難ルートの登攀記録を数々持っている。並み居る社会人の猛者連中も橋村さんと成城大学山岳部の精鋭達にはたじたじであった。まさに一世を風靡した風雲児たちである。

橋村さんが東海支部の一員に加わったのは、大学卒業後、東レの名古屋工場に就職したことによる。この名古屋赴任を契機に日本山岳会に入会、併せて東海支部に所属した。

この頃の登山界、先述の通り積雪期の初登攀争い華やかなりし頃であったが、一方で海外登山を目指すグループもあった。ヒマラヤ登山である。主に大学山岳部出身の登山家達であった。既に様々なグループがヒマラヤ登山を実践していた。東海支部でもヒマラヤ登山を計画していた。計画は、ジャヌー、ローヴェシャー、マカルーと二転三転した。

こんな中1964年春、ネパール政府は突如ヒマラヤ登山禁止令を発表。中印紛争の煽りである。ヒマラヤ登山を目指していた日本の、いや世界中の登山家達は、止むを得ずヒ



晩年の橋村一豊氏

マラヤ以外の山々に転進せざるを得なくなった。

東海支部も同じである。東海支部の転進先は、南米の最高峰アコンカグア(6962m)の南壁であった。橋村さんも一員に加わる。しかも、最も登山隊の中で重要な役割である登攀隊長である。これ迄の実績が買われたのは、言う迄もない。橋村さん率いる東海支部隊は、見事1966年1月フレンチルートからの南壁の第2登に成功する。橋村さんも登山隊をリードしながら自ら頂に立っている。この登攀は、高峰のバリエーションルートの記録として登山界から高い評価を得ている。

アコンカグアの後、橋村さんは、名古屋を離れる。転勤である。その後橋村さんの名前が出てくるのは、1974年の母校成城大学のネパールヒマラヤジャヌー(7710m)の登山隊である。

ジャヌーは、鷲が翼を広げたような奇っ怪な山容から怪峰と綽名された名峰である。橋村さんは、副隊長として隊を率いて南西壁に挑み、ジャヌーの第2登の成功に導いている。

橋村さんが、再び東海支部に顔を出すようになったのは、定年退職後の終の栖を名古屋(三好)に定めたことによる。東京出身の橋村さんは、世田谷の舟橋の家を引き払い名古屋に移住したのである。その理由を尋ねたことがあった。名古屋は、東西の中心でどこに行

くのも便利だから、であった。

私の想像するには、それもあつたであろうが、本音は、若い頃の名古屋で過ごしたノスタルジックだったのではないかと思っている。東海支部に戻った橋村さんは、支部で大いに第2の人生を謳歌した。支部活動では、自ら自然保護委員長を買って出ている。そのほか登山教室の講師を務めたり、ヤブ山にルートを開いてみたり、一方で森林環境に興味を抱き、森の勉強に励む。

その行き着いた先が、今や東海支部の重点事業の一つとなっている猿投の森づくりの会の設立である。15年目を迎える森づくりの会は、橋村理念の元、年々活発な活動を展開してきている。設立に奔走して今日の礎を築いた橋村さんの存在を決して忘れてはならない。

森づくりの会もそうだが、一つの事に熱中し出すと徹底的にそれを成就させるまでやらなければ気が済まないのが橋村さんであった。しかもやるなら一流でなくてはならず、人に後れを取るのとは以ての外が橋村さんの美学であった。森に興味を抱くと誰よりも早く森林インストラクターの資格を取得する。ちなみにこの資格は、なかなか難しく支部でも取得している者は数人しかいない。

これ以外にも何にでもそうであった。ゴルフをやらせればシングル、ワインに凝り出せばそこらのソムリエも顔負けで、自ら主宰して試飲会を開く始末。日本酒のうんちくを語らせれば滔々。登山についての一家言は、当然である。それらは自分だけで収めていればよいのだが、時には人に強要するクセがある。それに付き合わされる我々も大変であった。

人によっては、それが独善的であったり高圧的に写ったりして摩擦を生じさせかねないこともあつたようだ。昔から橋村さんを知る者は、いつもの橋村節と大して気に留めないが、初めて接する人には相当なインパクトを与えたようである。特に晩年の太った巨軀に丸坊主は、益々それを助長させたようである。

橋村さんと私は、年が6つ違う。勿論、橋村さんが上である。先輩に対して不躰な言い方で申し訳ないが、私は橋村さんと馬が合った。橋村さんも私には目を掛けてくれていた。

飲む程に酔う程に舌鋒鋭く毒舌を交え、相

手をやり込めることに快感を感じる節のある橋村さんである。私と馬が合うのは、若干私にもそのきらいがなきにしもあらずだからなのかも知れない。斗酒猶醉せず。大の酒豪家でもある。

飲兵衛3人、もう一人は中世古隆司さんであるが、三人連なってよく飲んで怪気炎を上げていたものである。今もその光景が鮮明に臉に浮かぶ。

この橋村さん。2年前に愛妻奈奈子夫人に先立たれている。奥さんが先だと途端に気が弱くなってしまうタイプと、逆に生き生きとするタイプがある。橋村さんは、前者であった。夫人を亡くして暫くしてから一緒に飲^{ツグ}つたことがあつたが、いつもの橋村節はすっかり鳴りを潜めていた。私は、すっかり毒気を抜かれてしまった。

その後、橋村さんは名古屋を離れ千葉の施設に移ったことを聞く。2019年10月21日逝去。享年82歳。巨星墜つ。運命とは申せ、寂々の哀感堪え難し。東海支部を語る時、決して忘れてはならない男が又一人去つた。

橋村さん追悼

— 孤高の人 —

和田豊司

ボルドー、ブルゴーニュ、シャンパーニュ、スーパートスカーナ、チリなどと大声で議論してる。ここは支部ルームなのか？飲み屋なのか？支部ルームで試飲会をするので出てこいとお達しで顔を出すとボトルがずらり並んで皆赤ら顔でご満悦。飲めない小生は黙ってつまみを口に運ぶ。ホワイトボードにはヨーロッパの地図が書かれ甘い、渋い、深いなど蘊蓄が殴り書きされている。まるで支部ルームはワイン研究会であった。中心は橋村さん。さっぱり解らないワイン語を使い解説している。どうも支部でワインの第1人者は橋村さんであるようだ。2001年頃小生が支部に入ったころの話である。

そのうちにゴルフの話になり、梶田だ、尾上だと腕自慢が始まる、今度も橋村さんが第1人者だと言いたげであった。

若い時は前穂高の岩壁に新ルートを切り開き、滝谷を闊歩し、ヒマラヤでは雪壁を登攀

する先鋭的なクライマーであった。常に最先端であることを目標に突き進んだクライマーである。支部ルームで見のお腹の出た橋村さんからは想像もつかない。

登山家として限界が見え始める齢になると今度は森づくりに興味を持ち始めた。自然保護関連の本を読み漁り、森林インストラクターの資格を取り、森とは何かを考え勉強を始めた。全国の森作りや森の成り立ち、ひいては熱帯雨林まで勉強する。たちまちにして森を語らせれば日本山岳会の中では第1人者となった。

準備期間を経て“猿投の森づくりの会”を立ち上げたのが2004年、県庁に乗り込んで愛知県東部にたくさんある県有林のうち一番活動しやすい猿投（県有林やまじの森）を活動場所として確保した。先見の明がある第1番目である。

森に関する論文や関東、関西での森づくりの活動、林野庁（林業）の動き、森の勉強会などを通じて猿投の森づくりの会の基本哲学として

「自然環境から切り離されて生活する現代の都市市民や児童が森の生物に直接触れる体験を通じて豊かな自然観をお身につけてもらう。自然を科学する好奇心を持つ。自然観は文明観を形成する。健全な文明観がなければ、正しい自然保護は行われない」との考えを設定したことである。この設定は先見性を示す第2番目であり、現在のすべての森づくり活動の根幹をなす。

さらに森づくりにおいて人工林としての植林は行わないという原則を決めたことである。



第7回猿投の森づくりの会総会



猿投の森研究の表紙

拡大造林が壁に突き当たり、税金を投入しての緑化・植林が時代遅れの施策であることを見抜いていた。木を植えることイコール良いことという観念を捨てた。これが先見性を示す第3番目である。

先見性のある優れた思考に基づき猪突猛進する姿は真似ができない。第1人者であろうとするプライド、勉強家、理論家、妥協しない行動、森づくりの会の基礎を築いた稀有の逸材であった。

東海支部俳壇

西山秀夫

八月二十五日 枋洞から桑平へ

アキアカネ絵にあるやうな山の里

山里にさはにキツネノカミソリ咲く

さはやかや滑滝をどこどこまでも

水底や大釜の水澄んである

陽だまりに待ち構へたり秋の蛇

残骸のルールも埋まる秋の谷

ヒグラシやかつての森の軌道跡

山毛櫨に付くクマの爪痕秋の山

九月十五く十六日 笹ヶ峰登山

妻恋のあはれ悲しく鹿が啼く

滝を攀ぢ藪をかき分け霧の山

霧包む山の一隅ビバークす

霧深し焚火もつかぬ寂しさよ

鹿道と知らず木立の踏み跡に

猿投の森・山桜フィールド

自然保護委員会委員長 井藤恵美子

環境省事業モニタリング1000里地調査について

自然保護委員会では、2019年より2023年の5年間で山岳会所有のヤマザクラフィールドを調査場所として、哺乳類動物調査を開始した。

モニタリング1000里地調査を始めたかどうかの提案があり、調査をすることにより社会に役立つ資料の提供が可能であることが分かり、2017年9月の委員会で応募することを決めた。10月の締め切りに合わせて井藤が中心となって必要書類を事務局の日本自然保護協会に提出した。内容は、カヤネズミ、カエル、哺乳類動物調査の3件である。

調査場所を県有林「山路の森」と、山岳会所有の「ヤマザクラフィールド」としたが、県有林での調査許可が下りなかった。理由は猿投の森は、森づくりのためだけに開放したのであるとか、貴重種が出たら、人がたくさん来るようになるので困るとのことであった。

2017年12月にカヤネズミ、カエルの調査依頼が日本自然保護協会より届き、2018年1月末に動物類調査の依頼が届いた。カヤネズミ、カエルの調査地は県有林のサルナシ湿地であるため、止む無く断念し、ヤマザクラフィールドでの哺乳類動物類調査のみを行うこととした。調査を受け持つ委員の活動の軽減にもなるとも考えた。

11月に海上の森センターで研修が開催され、6人が参加した研修終了後、赤外線カメラ3台、電池、充電器、腕章等を受け取った。これらの品は調査終了後に返却することになる。ほかに環境省の名入りプレート(返却不要)があった。

2019年5月に赤外線カメラを設置した。モニタリング調査の始まりである。猿投の森の動物調査と比較すればヤマザクラフィールドの動物たちはやや小さい動物たちかもしれない。黄金色に輝く毛並みの「テン」やキョトンとした瞳の可愛い「キツネ」やイノシシ、タヌキなどが撮影できた。勿論大型のニホンカモシカ、大きな角を持ったオスジカも写っていた。動物たちのすみわけがうかがえた。

「モニ1000に呼応し、盛り上げるためのキャンプ」も行った。9人が参加して、カメラの場所



調査の様子

を確認し、好天の星空を楽しんだりした。

また、自然保護委員に比較的若いと思える人が増えつつある。カメラ操作を覚えるなどの為に調査に加わってもらっている。5年間の調査が始まり、体調に留意し、5年あるいは10年と調査が続くことを願っている。

5月から10月までの第1土曜日がカメラの設置や回収日です。興味のある方は猿投の森入り口の変電所付近に集合していただきたい。時間は9時半です。一緒に調査しましょう。そしてヤマザクラフィールドを楽しみましょう。



キツネ



設置した赤外線カメラ

TOPICS 1

中世古直子さんのピッケル母校に寄贈

女性で世界初の8,000m峰(マナスル8163m)を登頂し、今年の4月逝去された中世古直子(東海支部員)さん愛用のピッケル(フランス シモンスパーD)が、母校金城学院高校に寄贈された。

ピッケルは、1970年のマカルー登山(東海支部隊)及び1974年のマナスル登山で中世古直子さんが実際に使用したものである。

9月23日同校を訪れ、支部員の和田豊司さんの手で綺麗にお化粧直しされたピッケルが金城学院の戸刈 修理理事長の手に渡された。戸刈理事長は、中世古さんの偉業を称え資料室に展示し、後輩の励みとさせたいと語った。

支部からは、和田さんの他にマカルーで一緒した尾上 昇支部員、林 順子支部員(中世古さんと同級生)が同行、その他同級生3名も寄贈に立ち会った。



左から戸刈理事長、尾上、林、和田の支部員

TOPICS 2

SON愛知創立20周年で感謝状授与

昨年9月29日名古屋市内のキャッスルプラザホテルでSON(スペシャルオリンピックス日本)愛知の創立20周年の記念祝賀会が開催された。

SONは、米国に本部を置く知的発達の障害を持つ人達(アスリートと呼ぶ)のスポーツ競技団体である。そのSON日本・愛知のプログラムの一環である登山を東海支部が毎年支援している。昨年も4月21日(日)美濃・高賀山で支援登山を行った。

祝賀会には、高橋支部長他2名の支部員が招待を受け参加。席上SON愛知の酒井俊皓理事長から高橋支部長に毎年の支援登山に対する感謝状が授与された。



酒井理事長と高橋支部長



東海支部の蔵書からの一冊②

図書委員会 川瀬眞知子

『現代登山全集4』〈白馬・不帰・鹿島槍〉

編者・諏訪多栄蔵・山崎安治・安川茂雄
・山口輝久

この全集10巻はそれぞれ「概説」「記録・紀行・ガイド」「随想」の項目で構成されている。あまりにも多くの内容で著者は24名、山岳会は7団体によって書かれている。編者の山口輝久が『後立山の多くの文献を調べてみて、この山域に関する優れた資料がいかにかい多にかに驚かされた』と述べている。私自身中高年の登山者になるが山経験は少なく、この全集を読んでいても「知らない、聞いたこともないルート」ばかりである。これからも挑戦することもないと思うが、少しは現地の風景が目にかぶ気がした。その様な気にさせてくれたのは、ページを繰るごとに著者が書いている”概念図”だ。とても詳しく山名や尾根・沢・ルート等が書いてあり、50年位前の作図である。

以下は私の少ない経験からの紹介である。「概説」は志村烏嶺の白馬50年から始まっている。筆者は初期の日本山岳会会員。83歳、52年目の第13回白馬登山の日記で猿倉、白馬尻、鑓ヶ岳までの縦走を書いている。この中に『今から50年前には「不帰の嶮」と「八峰キレット」の難所があり、縦走は殆ど不可能であった』とある。明治44年は縦走中止になった状況が書かれている。

この「八峰キレット」は私が山登りを始めて間もないころ、亡くなられた東海支部員の中瀬古直子氏のおかげで鹿島槍ヶ岳から五龍岳を縦走出来た所である。この文に触れて、その彼女の岩場をスイスイと通過する姿が思い出される。

さて、「記録・紀行・ガイド」は後立山連峰の一般コースから岩場・沢・谷を網羅。当時の人々は積雪期・無積雪期の初登攀に挑戦し、一般コースでは「連峰を南下する縦走」を選択している。選んだ理由は南北に連なる稜線の南から始めるか、北ルートから始めるかということが、『難易の比較というよりも要するにその好みの問題である』と説明して



いる。

鹿島槍北壁の無雪期におけるバリエーション・ルートは、大阪大学の夏山合宿で大部分のほとんどが登られてしまう。各ルート・尾根・ルンゼの名称も登攀報告によって統一されている。『積雪期のトレースもわずかの間に中央ルンゼを残すのみとなった。その大きな理由は社会人山岳会の積極的な介入があったことも見逃せない』と書かれている。この頃の登攀に挑戦する人は大学生や若いOBが中心である。また、荒沢奥壁北稜では「山登りはスポーツ」という言葉が出ている。

黒部川後立山側の谷は「黒薙川に北又・柳又の二谷が合流する。北又・柳又の比は大体二対一。二つの谷の対象は面白く、北アルプスの溪谷を詔らんとする者は、一度この谷を訪ずれなくてはならぬ」と黒部の主である冠松次郎にいわせたものだ。と書かれている。

「随想」は安曇野日記抄から始まる。春祭で鎮守の桜も真っ盛り。“嫁呼ばり”“嫁見せ”と寒村の暮らしがみえる。今までの登山の記録と違いゆったりとした暮らしを感じた。

読後にく登攀時のビバーク・垂壁へのルート取り・沢の渡渉・藪漕ぎの様子>の印象よりは、当時の登攀の状況は”概念図”なしでは紹介できない。それは各ルートごとに詳しく作図されているからで、まるで写真を見ているように、山全体が見えてくる。読んでいくうちに、自分自身参加しているような錯覚に陥り“概念図”で楽しい登山を経験できた。

発行者・小林茂 発行・昭和36年6月30日

東海岳人列伝(13)

～藪山が大好きな国手・上田 正さん～

編集委員 西山秀夫

会員名簿で上田正を見ると、会員番号は7114、入会年は1971年2月の記録。昭和46年のことだった。東海支部の設立から10年後のことである。入会当時を50年史はこう書いた。「1977年4月17日の通常総会で尾上昇が第五代支部長に就いた。副支部長には中世古隆司がなった。以後、このコンビが常務委員会をリードしていくことになる。東京から望月達夫が来名し、23名の出席を得た。原真の出席を見る。この日以来支部の行事には名前を見ることがない。尾上昇の時代が開幕したのである。」

奥三河の集い

上田正は入会して1981年までは雌伏するばかりであった。上田さんばかりではなく、東海支部の運営はおかしい、と感じていた会員が多数いた。ある会員は海外に行かない支部員は居心地が悪いとまでもらしていた。満を持して活動し始めた。50年史から抜粋すると、「多様な会員の入会を見る」と題して「もう一つ特筆すべきイベントがある。11月の「奥三河の低い山を歩く会」である。38名もの参加者を得た。佐々保雄(第十四代会長)、神崎忠雄、高橋聡(5832)らの東京から来たメンバー、三河勢の山田猛(5880)、長坂博(8803)、鈴木常夫(6914)、横田明信(7259)、筒井稔(7163)、名古屋からは尾上昇一家4名、中田晴紀子、小川務、鈴木重彦、大口瑛司、湯浅道男がいた。

最後になったが忘れちゃいけないのは上田正、深谷泰の2名だ。後にまで語り継がれた奥三河の集いの主だ。

上田正は東海支部の運営に疑念を抱いていた。この席上でついに爆発したのだった。支部が目指すのは氷雪に覆われた尖がった山ばかりだ、というわけだ。これに賛同したのが大口瑛司、筒井稔、深谷泰だった。日本山岳会の先輩たちの著作を読んでいた上田には今のスポーツ登山的な雰囲気違和感があったのである。ヒマラヤの高峰を目指す登山だけを崇高と見るのは問題だと考えていた。尾上昇の心に上田正の名前がしっかり記憶された

日でもあった」。この辺りから日本山岳会東海支部は海外登山のみならず、支部運営の多様性が計られていく。

それは「多数の執筆になるガイドブック誕生！」に成果が現れた。

「1991年6月、東海支部は30周年を迎え、記念出版として『名古屋からの山なみ』を中日新聞から発刊した。上田正の奥三河の乱以来、多様な価値観をもつ支部員を擁していたからこそできたことであった。そして「登山教室の再開」、「また、30周年を記念して朝日カルチャー登山教室も開講された。40歳以上の中老年登山者が激増し、山岳遭難が多発し、遭難防止を目的とした社会貢献でもあった。1993年に初めて支部友会がでてくる。これは教室を終えた受講生の受け皿として始まった。支部員が山を選んで計画し、リーダーも努めた。支部友会員の参加者を募って山歩きを楽しむというこれまでの東海支部にはなかった画期的なシステムができたのである。東海支部では国内山行は一切なかったのである。

この中から、支部員に入会し、インドヒマラヤ登山の隊員にまで成長する人が現れて、大きな成果を生んだ。支部友会は支部員を安定的に供給する東海支部の底荷となったのだ」。

それだけではない「1995年11月支部初めてのガイドブックを刊行した。安藤忠夫が編集長になり『名古屋周辺徹底ガイド』本編、翌年3月には続編も出版した。山座数が200座以上もあり、ヤブ山や雪山も含めた取材登山には多くの支部員、支部友らが動員され、協力を惜しなかつた」。

上田さんは登山教室の講師としても活躍された。東海支部における活動ぶりは地味だった。海外遠征を陽とすると国内登山は陰になる。上田さんはこの陰のいしずえになった。

筆者が上田さんと交友関係になったのは1982(昭和57)年から1983(昭和58)年ごろだと思う。「新ハイキング」という山の雑誌に上田正の名前を初めて見て以来、バックナンバーを取り寄せてガイドブック代わりにしてきた。

あの当時はまだ愛知県の山のガイドブックはなかったから貴重な情報源になった。雑誌の記事で上田クラブの存在を知って、幹事役の菊田貞明さんの名前で愛知岳連の東海銀行山岳部理事と同一人物と分かった。電話番号も知っていたので連絡を取った。私も上田クラブにお誘いを受けることになった。

上田さんは初対面にもかかわらず、偉ぶらず、豪放磊落であるというのが第一印象である。以来年に2~3回は参加させてもらった。上田クラブで交わる共通のクラブは一等三角点研究会、深田クラブである。皆さん山に登るだけではなく、山の本を読んで、且つ商業誌、会報などに書いている人ばかりだった。これは随分な刺激になり、お呼びが待ち遠しかったものである。藪山、名山、一等三角点の山を酒の肴に語り合えば夜更けまで話し込んだ。

上田クラブに集まる人材は医師、会社役員、銀行員、教員など社会的地位の高い人ばかりである。しかし、もっとすごいのは医師にして奥様の瑞子先生の手料理のおもてなしだった。これには今も感謝の念に堪えない。それで尊敬を込めて上田先生と呼んだ。奥様は瑞子先生と呼ばせてもらった。

なぜこんなに人が集まったのか、私は「一将功成りて万骨枯る」というところが一切なかったからだと思う。他人を使って利用して、自分の手柄にする。良い子になってのし上がる俗人とは無縁の存在であった。

たまには娘の空木さんがお手伝いされた。上田家では4人の子供さんにみな山の名前がついていた。仙丈、塩見、空木、越百さんと。梓や穂高ならよく聞くが・・・。

先述したように1991年の『名古屋からの山なみ』の出版には上田クラブを挙げて協力した。1人3座から5座を引き受けたはずである。あるいはそれ以上の人もいたかも知れません。4年後の『名古屋周辺徹底ガイド』上下も上梓できた。こうして東海支部は海外遠征のみならず国内山行の人材の基盤ができていったのだ。

ちなみに私が1984年に入会した際、当時の尾上支部長にあいさつすると「東海支部では一切国内の山には行かない時代があった」。しかし時代は変わった。海外イベントばかり

ではなく、今は国内山行の登山者の養成にまで乗り出してきた。それができるのも上田さんらの「奥三河の集い」があったからだと思う。

上田クラブには尾上昇氏、故中世古隆司氏、

小川務氏らも顔を出された。小川氏がつくづく言われたのは「上田さんのお陰で東海支部に新風が吹きこまれたね」と。本当にそう思う。

最後になったが、上田先生は小児整形外科医であった。八高、名古屋帝国大学医学部から名大講師を経て、病院経営、その後岡崎市の第二青い鳥学園(現在は「愛知県三河青い鳥医療療育センター」に改称)の園長先生になられた。1988年、脳性まひの肢体不自由児を手術で治癒させる「上田法」を考案し、中国、米国などに指導してまわられた国手である。国手とは名医であり医師の敬称である。門外漢の我々には、例えば名古屋東京間の回線が不通になれば名古屋から新潟につなぎ、東京へ通話する、と解説。脳がマヒしているのではなく、脳と足の神経のう回路に着目したわけだ。

読売新聞の地域医療賞を受賞、国の瑞宝双光章も受賞。現在は後輩が継承し地域医療に多大な貢献をされた。

上田先生は癌になりお見舞いに行くと「君たちには世話になった。もう会うことはない」と言われ、半信半疑でいたら半年後、惜しくも2009年5月9日に他界された。医師ゆえに死期が分かったのだ。もう10年が過ぎたのかと思う。



寄稿した新ハイの表紙



わたしの山との付き合い方

山行委員長 鈴木慎吾

■山に生かされて

定年後の第二の人生を迎えたときやりたいことがたくさんあった。学生時代に少しかじったことのあった山歩きをもう一度初歩から学び直そうと東海支部に入会する。いろいろと教えてもらおうと、今まで知らなかった新しい山の楽しみ方や奥深さが分かってきて更に登高意欲が湧いてくる。しかし、人生どこに陥穽があるか分からない。「これから思う存分登れるぞ!」と思っていた矢先、突然の病氣宣告を受け手術を余儀なくされる。ガックリである。しかし、「病氣になど負けてはならじ!」とカラ元気を出し、3ヵ月後には山登りを再開する。それ以降多少のあせりも手伝って、女房のお墨付きも貰えたので、年間100日近くは山に入る生活が続いている。支部に入ってからには沢歩きや山スキーなど今まで知らなかった新しい山の楽しみ方も教えてもらった。また、登山教室などでいろいろな方たちと一緒に山行できたことも大きな喜びとなった。幸いにも今のところ何とか健康も維持できている。山に生かされながら、これから先も健康が許す限りまだまだ山との付き合いは続きそうである。

■百名山ブーム

現在の中高年登山ブームの一つの原因となったのが「日本百名山詣」である。深田久弥氏の『日本百名山』（新潮社）が火付け役となり、テレビなどでも盛んに放映されるようになった。ちょうど健康増進ブームとも合致し、中高年の趣味として一気に広まった。旅行社が催行するツアー登山なども普及し、人気のある山はどこへ行っても中高年登山者の行列である。深田氏の選定された百名山には、確かに日本における魅力的な山々が多く、私も登ってみたい山がたくさんある。しかし、山に登る根源的な意味は、喧噪の日常生活から離れて大自然の中に浸ること、と考える私には、現在の百名山詣の如く人の後ろをついて歩くだけのような混雑した山からはどうしても足が遠のいてしまう。あまり人が入らなくても魅力を秘めた山々がまだまだたくさんある。地形図を開きながら「あの山の頂から眺めたらどんな風景が広が



黎明の梅里雪山

って見えるのだろうか?」と想像が広がる。地形図を頼りに、一日中ほとんど登山者と出会うこともない静かな山中を歩いているときに至福の時間が流れていることを実感する。「私の百名山」として、四季折々に違った表情を見せてくれる日本の山の素晴らしさを求めていきたい。

■山と写真

私のもう一つの趣味は山における写真撮影である。刻々と変化する山の一瞬の輝きを写し撮るのは何年やっても難しい。かつてのフィルムカメラの時代には、重い機材を担いで登り、しっかりと構図や露出を決めて一枚一枚大切にシャッターを切ったものである。しかし、現在はデジタルカメラ全盛の時代になり、誰でも容易に写真を撮ることができるようになった。重い荷物を担いで登ることが体力的に難しくなった我々中高年にはありがたいことである。しかし、フィルムカメラの時代のようにじっくりとカメラに向かってシャッターを切ることが少なくなったことは少し残念である。一年に何千枚と撮っても人様に見て頂くような作品はなかなか撮ることはできない。山々が最高の表情をみせる一瞬のシャッターチャンスがいつかは訪れることを信じてこれからも撮り続けていきたい。10年ほど前に旅行で行った中国奥地のチベットに連なる峰々が、黎明に輝いた瞬間の近寄りたいたいほどの神々しい姿は忘れ得ない。

委員会報告

【山行委員会】

■令和元年9月～11月の支部山行実施状況

	日程	山域	山名等	参加人数	リーダー
9月	7日	京都トレイル	北山西部コース	9人	天野
	14・15日	奥美濃	笹ヶ峰（滝ヶ谷）	3人	西山
	18日	静岡市北西	突先山	7人	石井
	21・22日	中央アルプス	空木岳～越百山	中止	大矢
10月	13・14日	頸城山系	雨飾山ほか	中止	稲葉
	17日	木曾山脈	大川入山	5人	鈴木
	19日	鈴鹿	カクレグラほか	中止	石田伸
	23日	高見山地支脈	修験業山ほか	5人	石井
	26・27日	八ヶ岳	蓼科山～北横岳	中止	石田誠
	27・28日	妙義荒船佐久高原 国定公園	荒船山・妙義山	5人	石井
11月	2日	近江朽木	駒ヶ岳	7人	吉田
	7日	鈴鹿山系	銚子ヶ口	10人	鈴木
	19日	鈴鹿	御在所岳後尾根	7人	山田

※支部山行ホームページで参加者を募集していますので、ご覧ください。

山行委員会委員長 鈴木慎吾

【技術向上委員会】

大自然の中で体を動かす登山において、人体の構造や仕組みから、状況に応じた対応を考えることは非常に重要です。知識と技術を学び、予防対策だけでなく、予期せぬ事故に出合ったときに、戸惑うことなく楽しく山に登りましょう。

「テーピング実技と体の構造」講習会を開催します。

第1部では、痛みや捻挫の発生防止などに有効なテーピング実技の講習会を行います。第2部では体の中でも、歩行や登攀運動を支える関節等の腱や筋肉・骨の構造と仕組みを勉強する講習会とします。

日時：2020年1月25日（土）

13：00～16：00（12：45開場）

第1部 13：10～14：30

「登山に役立つテーピング」実技講習

講師：佐藤丈能先生（至学館大学短期大学部体育学科専攻科長・教授

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー）

第2部 14：45～15：50

「体の構造」関節をメインとするお話。

講師：三浦裕先生（至学館大学栄養学科教授、国際山岳医）

場所：OMCビル4F大講堂

費用：無料

申込：

●第1部の「登山に役立つテーピング」実技講習希望者は、申込が必要となります。参加者はチームに分かれ、実際にテープを巻く講習が含まれます。教材は主催者で用意しますので不要。動きやすい服装で参加下さい。先着40名とします。

申込先：技術向上委員会 今津

(imazu.eitirou@maroon.plala.or.jp)

締切：2020年1月15日（水）

●第2部の「体の構造」の受講は申込の必要はありませんので、直接会場にお越しください。

技術向上委員会委員長 片岡康彦

【東海 Youth】

東海ユースの11月の定例山行では、支部の先輩方にもご参加いただき、懇親を兼ねて1泊2日総勢17名で福井・敦賀の山に登って来ました。

天候に恵まれた中、初日2班に分かれ紅葉の少し残るさざえヶ岳～西方ヶ岳を縦走し、温泉

に入り旅館へ到着。新鮮な魚介類に舌鼓を打ちながら宴会へ。翌日は日本海さかな街に立ち寄り、お昼にジビエ料理を堪能して来ました。

普段なかなか接する事の少ない方々との交流を深めると共に、学ぶ事も多く充実した山行となりました。

様々な面で今後繋がる良い企画だったのではないかと思います。皆さまお疲れ様でした、ありがとうございました。



西方ヶ岳にて

東海 Youth 代表 服部康弘

同好会コーナー

スケッチクラブ

村中征也

半田・矢勝川畔～赤レンガ建物

9月20日(金)は、念願の半田へのスケッチ旅行。目的は矢勝川畔の彼岸花の群生と、新美南吉記念館を訪れることでした。彼岸花は南吉作の童話『ごんぎつね』に由来し、地元が300万本に増植したものです。しかし花期は3日程と短く、今年は早すぎました。

そこで、かつて「カプトビール」の工場だった赤レンガの建物が保存されており、これをスケッチして鬱憤を晴らしました。その後、ミツカンの蔵とカフェを訪れ、お喋りを楽しみました。



ミツカンの蔵をバックに運河畔で

多治見・永保寺

多治見市虎渓山町に、紅葉で有名な禅寺・永保寺があります。シーズンに訪れたいと思い、11月18日(月)にやっと実現しました。

JRと東農バスで訪れると、広大な敷地に驚か



永保寺観音堂をバックに

され、国宝の建物が迎えてくれました。鎌倉時代の1,314年に建てられた観音堂と開山堂で、檜皮葺の威厳のある建物が、紅葉に囲まれ見事な画材を作ってくれました。また夢窓国師作といわれる池泉回遊式庭園も見事で、四季を通じて楽しめるようです。

第6回作品展

早いもので、6回目の作品展を開催するまでになりました。2月12日(水)～16日(日)の5日間、名古屋市市政資料館・第5展示室(昨年と同じ)で、山の絵の他多彩な作品を展示します。

東海支部の皆さんには、毎回大勢訪れて頂きますので、どうか知人の方々をお誘いの上是非ご覧頂きたく、ご案内させていただきます。

代表…石田好子

事務局…村中征也・武内喜代子

60山ラリーお知らせと経過報告

60周年記念国内事業担当 岡本英俊・山田明美

60山ラリー状況（11/28現在）

支部創立60周年記念事業の一環としてすでに60山ラリーがスタートしています。実施内容の詳細については7月の支部報（No.158）に報告されていますので再度確認してください。

1. 進捗状況（下記表参照）

11/28現在、登録者数は72名を数えるにとどまっており、過去のラリー登山に比し非常に寂しい感があります。多くの支部関係者に参加して頂き、記念事業を盛り上げたいと思います。近隣の山巡りをして、より楽しい山岳会ライフを楽しみましょう!!

72名の方がそれぞれのコースを楽しんでチャレンジしておられます。すでにコースを達成された方も2名、180座登頂された方、活火山のように一気に爆発！させようと登頂リストを手元にため込んでおられる方、数にこだわらず名さえ知らなかった山々を巡る等それぞれ楽しんでおられます。是非参加してください!!

2. 参加登録について

振込用紙（支部報新年号に同封）で登録費 ¥3,000-を振り込んで頂ければ登録完了となります。登録して戴いた方には山名冊子（リスト）と登録報告ハガキ（3枚）を送ります。

登録された方はいずれかのコースで60山登頂を目標にチャレンジして下さい。重複している山岳は他コースにも登録されていますので、自動的に他コースの登頂数にカウントされます。

3. ホームページの公開

HPは1月1日から公開いたします。支部報に同封しました小封筒の中にHP会員ページへの『パスワード』が入っています。

ログインして頂くと登頂登録、登頂実績など情報を閲覧できます。

HP操作については、HP表紙下段に『操作の手引き』がついていますので、参照し実施してください。インターネット環境をお持ちでない方は、従来通りハガキ報告でお願いします。

コース別登頂状況 - - - () 内数字は登頂数 11/28 現在

コース別達成者	1位	2位	3位	4位	5位
100高山					
1等三角点					
愛知県の山	栗木洋明(64)	山田明美(60)			
岐阜県の山					
三重県の山					
静岡県の山					
チャレンジ	栗木洋明(180)	山田明美(70)			
コース別登頂数ベスト					
100高山	鈴木愛子(30)	栗木洋明(26)	岡本英俊(11)	井上寛之(8)	石田 誠(6)
1等三角点	栗木洋明(43)	山田明美(11)	前田隆久(9)	榊 将美(9)	石井 仁(8)
愛知県の山	栗木洋明(64)	山田明美(60)	石井 仁(28)	前田隆久(25)	榊 将美(21)
岐阜県の山	栗木洋明(45)	光崎 晋(16)	木村桂子(11)	前田隆久(11)	榊 将美(9)
三重県の山	栗木洋明(22)	榊 将美(9)	光崎 晋(6)	金谷正起(4)	石井 仁(4)
静岡県の山	栗木洋明(13)	石井 仁(11)	榊 将美(1)	石田好子(1)	木村桂子(1)
チャレンジ	栗木洋明(180)	山田明美(70)	石井 仁(44)	榊 将美(44)	前田隆久(40)

支部友コーナー

◆支部友委員会山行計画(令和2年4月~6月分)

- 4月4日(土) ☆☆
 山域：伊吹山地 山名：池田山
 リーダー：榊 将美 締切：3月4日
- 4月12日(日) ☆☆
 山域：三河 山名：本宮山
 リーダー：高松信治 締切：3月12日
- 4月18日(土) ☆
 山域：瑞浪&恵那 山名：中山道
 リーダー：松本陽子 締切：3月18日
- 4月25日(日) ☆
 山域：中央アルプス 山名：霧訪山
 リーダー：水野猛志 締切：3月25日
- 4月29日(水) ☆
 山域：南木曾 山名：賤母山
 リーダー：金谷正起 締切：3月29日
-
- 5月9日(土) ☆☆
 山域：愛発山地 山名：赤坂山
 リーダー：榊 将美 締切：4月9日
- 5月16日(土) ☆☆
 山域：鈴鹿 山名：鈴鹿の上高地
 リーダー：金谷正起 締切：4月16日
- 5月16日(土)17日(日) ☆
 山域：鈴鹿 山名：御在所・国見尾根
 (藤内小屋泊)
 リーダー：村瀬恭平 締切：4月16日
- 5月17日(日) ☆
 山域：鈴鹿山脈 山名：竜ヶ岳
 リーダー：今津英一朗 締切：4月17日
- 5月30日(土)31日(日) ☆☆☆
 山域：木曾山地 山名：木曾駒が岳
 リーダー：磯部 隆 締切：4月30日
-
- 6月6日(土) ☆☆
 山域：伊那谷 山名：戸倉山
 リーダー：高松信治 締切：5月6日
- 6月13日(土) ☆☆
 山域：奥越高原県立自然公園 山名：荒島岳
 リーダー：榊 将美 締切：5月13日
- 6月13日(土)14日(日) ☆☆☆
 山域：比良山地 山名：武奈ヶ岳
 リーダー：村瀬恭平 締切：5月13日
- 6月19日(金) ☆
 山域：赤石山脈最北部 山名：入笠山
 リーダー：松本陽子 締切：5月19日

- 6月20日(土) ☆☆
 山域：鈴鹿 山名：雲母峰・馬の背尾根
 リーダー：磯部 隆 締切：5月30日
- 6月27日(土) ☆
 山域：布引山地 山名：経ヶ峰
 リーダー：田中 進 締切：5月27日

支部友会員数

令和元年11月末現在/97名

山行対象者 支部友会員及び支部会員

- 申込み方法** ・支部友会員は申込締切日までに、各山行リーダーが示す方法で申し込む。
- ・締切日 原則山行日 20 日前まで。(締切日を過ぎての参加空き情報はリーダーに直接問い合わせ下さい)
 - ・支部会員は申し込み締切日の翌日以降に、各山行のリーダーへ問い合わせる。
 - ・山行の募集人員を超えない範囲で、支部会員の参加申し込みを受け付ける。

次回支部友ミーティング

開催内容のお知らせ

「予定」

第39回「2020夏山への誘い」

日時：4月14日(火) 19:00~21:00

会場：支部ルーム

講師：各山行リーダーがコースを説明します。

リーダー連絡先

- 尾上 昇** FAX: 052-832-3878
 メール: onoe@onoe.co.jp
- 榊 将美** 携帯: 090-7237-4410
 メール: m.sakaki@minds-consulting.jp
- 金谷正起** 携帯: 090-9931-3600
 メール: kanaya.masaki@rouge.plala.or.jp
- 村瀬恭平** 携帯: 090-4186-9876
 メール: hoshizakari@docomo.ne.jp
- 田中 進** 携帯: 090-9191-8666
 メール: t-susumu@peace.ocn.ne.jp
- 今津英一朗** 携帯 090-2616-7549
 メール: imazu.eiitirou@maroon.plala.or.jp
- 磯部 隆** 携帯: 090-9180-7245
 メール: takass@yk.commufa.jp
- 松本陽子** 携帯: 090-7859-4031
 メール: yo-kom@nifty.com
- 高松信治** 携帯: 090-3156-5268
 メール: takama2nobu3@yk.commufa.jp
- 水野猛志** 携帯: 090-5866-3781
 メール: r34668@bma.biglobe.ne.jp

会 務 報 告

【2019年9月常務委員会】

日時：9月25日(水)19時00分～20時15分

1. 支部長挨拶(高橋)：60周年に向けて事業が始まった。これに合わせて支部員の人も様々な企画を考えて頂ければと思っている。また、全国支部合同会議が東京で予定されているので、意見などがあれば出して欲しい。議題の一つに「山行計画書を提出する対象の山について」があるが、東海支部では全ての山が山行計画書提出対象としている旨報告する予定。

2. 委員会報告

①支部友委員会(金谷)：8月の山行報告は2件だったが雨の影響もあり、大日岳・奥大日岳の一件の実施に留まった。9月も金峰山は台風の為中止をしている。支部友ミーティングについては忘年会を登山学校の人と12月10日に一緒に行く。会員の移動は無い旨の報告がされた。

②会計(市川)：会費の未納者があり今月末の支部報で再請求を行う。広告は新規に天野氏より掲載を承諾して戴いた。

③山行委員会(鈴木)：山行計画内容審査について、中央アルプス空木岳は中止、その他の計画は実施予定。2019年下期山行計画の12/8 or 12/14 忘年会山行は、支部山行として計画してほしい。また登山学校卒業生を支部員として取返みたいので支部山行もその為の計画を作りたい。その他にはHPを井上氏に改修していただいた。緊急連絡先・加入保険の内容を毎回入れる様にした。山行委員会としても60山ラリーの山を計画して協力していく。

④猿投の森づくり委員会(和田)：名古屋環境大学に依り「蛇口の向こう・水源の森へ！」と言う講義が12/26から始まる。森に関する勉強会として参加してほしい。また日本山岳会全国森づくり連絡協議会が10/5 東大演習林研修所で開催する。現在全国から33名参加。支部からも参加してほしい旨要請。

⑤東海ユース(服田)：9/7に運営委員会を開いた。そこで入会規定と会費の見直しを協議し継続審議となった。また10/22には入会希望者一名の説明会を実施する。

⑥登山学校運営委員会(榎)：山行報告は別紙添付の通り実施した。10月は朝明ミーティングを支部友会と合同で分散登山を行う計画。登山学校からは指導員と受講生で74名参加する。また10/19には第2回目の机上講習を行う。テ

ーマは「読図」で初級と中級を対象に座学 47名・現地講習 29名・指導員 6名で予定している。また森の音楽祭は登山学校としてハイキングの引率を担当している各コースに無線機を1台携行して3名の指導員を配置する。また参加者を対象にした保険の加入について毛利氏が調べる事とした。-調査の結果、-加入を予定している保険でハイキングもカバーされること判明。

⑦自然保護委員会(井藤)：ヤマザクラフィールドでのキャンプは無事終了した。熊の出没については居るとの情報があり声のみの確認で生態確認は取れなかったが今後とも注意を要する旨の報告がされた。

⑧学生連盟(喜田)：ゴザフェスは無事終了した。参加者は20名ほど有り参加校は7校。2日目は前尾根クライミングを実施。また剣岳合宿も無事終了。テント泊でコースは北方稜線と源次郎尾根を実施した。秋の総会は11/8か11/10に予定。

⑨ボランティア委員会(前田)：予定の行事を10月中旬から11月までに実施する。終了次第報告する。

⑩遭難対策委員会(山田)：毎月リスクグレードについてチェックしているが「リスクグレード3」については2ヶ月続けて“0”だったので審査は行わなかった。但し、2008年に作られた東海支部山岳救助隊活動規定は実情に合わない文章表現等があり修正中。遭難対策委員会で見直した上で改正案を常務委員会に提出する。

⑪青年部(鎌倉)：10/5～10/6に日向小屋で、青年部12名程でロープワーク講習会等と懇親会を計画している。

⑫写真展実行委員会(欠席)：資料のみ配布。

⑬60周年記念事業(尾上)：大綱は支部報新年号で概要を発表予定。事業計画は3点で①国内事業②海外事業③出版事業のカテゴリに分けた。①国内事業について(一)60山ラリーの新コースの設定をした。(担当：山田福支部長)(二)全国支部懇談会の開催。東海支部創立60周年記念全国支部懇談会と冠を付けて実施計画。(担当：佐野副支部長)(三)60周年記念の式典及び懇親会の開催。(担当：毛利総務委員長)②海外事業については海外登山の実施。(担当：片岡副支部長)また海外トレッキングの立案。③出版事業については支部報の合本版、東

海山岳 12 号 (担当: 星支部報委員長) の出版を予定している。合本版については希望者のみの配布にする予定でいる。

⑭森の音楽祭(毛利): 一般参加の申し込みは 9 月現在で 230 名。最終的には 300 名を目標としている。整備作業は今迄に 2 回実施。9 月 28 日ともう 1 回 10 月に予定している。

⑮支部報編集委員会(尾上): 支部報第 159 号は 9 月 30 日を発送予定、皆さんの手元には 10 月 2 日までには到着予定。広告収入減については一枠空いているので紹介協力を戴きたい旨要請あり。

出席: 高橋、尾上、毛利、市川、榊、天野、和田、鈴木、井藤、佐野、鎌倉、喜田、山田、服田、金谷、前田

【2019 年 10 月常務委員会】

日時: 10 月 23 日(水)19 時 00 分~20 時 45 分

1. 支部長挨拶(高橋): 全国支部合同会議に出席をした。登山届計画書の提出基準について議論あった。120 周年記念事業の 1 つとして全国の古道巡りが本部から提案された(東海支部の行った塩の道巡りが例として挙げられ、佐野副支部長が概要説明)。他支部交流は東海支部は広島支部との交流しかない。今後東海エリアでの交流も深める検討をしたい。

2. 委員会報告

①支部友委員会(金谷): 9 月の山行報告 4 件の内 2 件台風のため中止した。10 月の計画は 5 件で、内 1 件雨のため中止した。朝明ミーティングは 87 名の参加が有り盛況の内に終了した。

②県岳連(鎌倉): 「登山研修所友の会」講演の紹介(10 月 27 日)。11 月 17 日に冬山対策委員会を行う。

③山行委員会(鈴木): 10 月 27 日妙義山を予定している。11/19 予定の御在所岳後尾根に関する事前ミーティングを 10 月 22 日に行った。実施状況報告について、9 月 18 日の突先山山行の際メンバーの足並みが揃わない時の対処に課題が残った。その他に損害賠償責任保険加入の検討をお願いしたい旨の報告がされた。

④亀の会(毛利): 加藤さん欠席。9 月 26 日、京都音羽山参加者 18 名で実施。10 月 24 日、福井のホノケ山 19 名で実施予定。歩こう会は 10 月 27 日、尾張旭市古賀池湿地から森林公園を計画。11 月 5 日は定光寺公園散策を予定している。また亀の会は 60 山ラリー共同山行が発足した旨報告。

⑤猿投の森づくり委員会(毛利); 和田さん欠席。

佐野副支部長より全国森づくり連絡協議会活動について発言。開催場所は猿投の森の東大演習林で実施。本部自然保護委員会からの参加もあり、支部毎の現状報告などを行った。- 今後も毎年実施予定とした旨報告。

⑥東海ユース(服田): 14 日の企画山行は中止となった。その他に夏山フェスタの来場者からの新規入会希望者あり(29 歳の男性)活動内容など説明-入会するか否かは未定。

⑦支部報編集委員会(星): 次号 160 号は 1 月 1 日発行予定。締切りは 11 月末日。60 周年記念事業として東海山岳 12 号を計画-構成プランを作り始めた。来月の常務委員会に提出予定。他に支部報合本版の発行も予定している。

⑧60 周年記念事業について現状報告(尾上) - 60 山ラリー参加者は現在 65 人。全国支部懇談会開催時期は春か秋 - 開催地菰野町からは春にして欲しい旨要望あり。宴席・宿泊は希望荘と朝明茶屋の平行利用、開会式・講演を菰野町のホールを考えている旨報告。支部報 160 号に記念事業の概要を海外登山トレッキングも含め報告する予定であるとの由。

⑨青年部(鎌倉): 5 日と 6 日広島支部と御在所の根ノ子山山行を実施して懇親会を行った。また冬山に備えては、雪上訓練の打合せを予定している。

⑩学生連盟(草野): 自己紹介。8 月 31 日・9 月 1 日のゴザフェスは 25 名の参加。また 9 月中旬に劔北方周回と源次郎尾根を 4 名で実施した。今後の予定として早月尾根、3 月までに笠ヶ岳を計画している。支部長より'チーム冬山'の事業に若手育成の為助成金を出す事にした旨提案 - 承認。

⑪登山学校運営委員会(榊): 9 月 10 月の報告については議事録記載の通り。11 月以降の計画は承認済み。

10 月 19 日読図講習を 50 名の参加で行い、翌 20 日に各務ヶ原アルプスで実技を行った。11 月 30 日は冬山装備についての講義、12 月 15 日は冬山の気象の基本について遭難対策委員会と合同でオープン講座として行う予定。提案事項として登山学校及び山行委員会が催行する山行に賠償保険をかける事としたい旨の提案があった - 原則承認。但し、他の委員会の山行についても同様に賠償保険を掛けるべきとの意見があり、山行を行っている他の委員会から意見・希望・山行の実態内容の聴取をし、どんな形で賠償保険をかけるか決定することと

なった。一総務の方で調整。森の音楽祭のハイキングは担当者を決定、コースの下見も終了している。登山学校の、第2クールの入校式は7月18日に決定した旨報告。

⑩自然保護委員会(井藤)：モニタリング1000の調査は10月に終了した。追加で11月に再度行う。その他2020年度JAC自然保護委員会全国集会は7月4、5日で決定。JAC自然保護委員会・関西支部、京都滋賀支部の共催。

⑪ボランティア委員会(前田)：親子登山教室10月19日は雨天の為中止。11月計画は議事録の通り。

⑫遭難対策委員会(山田)：登山届の中にグレード3はなかったため検討委員会で山岳救助隊活動規定及び活動要綱の見直しを行った。朝明の警察署から管轄内の山岳事故の資料の開示を受けられることとなったため、事故対応検討会の資料としたい旨報告。支部山行の登山届けにリスクチェック表の出していないのが3件あったので今後は必ず提出して欲しい。

⑬写真展実行委員会(山内)：議事録に沿って報告がされた。9月計画の立山三山は終了した。10月23日鼓ヶ岳は中止、大台ヶ原は山内Lに変更、11月の金華山撮影は17日で決定。

⑭森の音楽祭(毛利)：26日開催予定で準備は終了した。雨の場合は瀬戸駅隣のパーティセとで行う旨報告。

出席；高橋、尾上、毛利、榊、星、佐野、片岡、山田、井藤、鈴木、鎌倉、金谷、山内、前田、服田、石田、草野

【2019年11月常務委員会】

日時：11月27日(水)19時00分～20時30分
1. 委員会報告

①支部創立60周年記念事業(尾上)：配布された資料に基づき、概要説明。既にご承知のとおり60山ラリーはスタートしているが他は企画段階。各副委員長の元、各委員会から資料のとおりメンバーを選出し、ご協力いただきたい。

(山田)60山ラリーについては現在72名の申し込み。次号の支部報で再度周知し、多くの方の参加を募る。HPの改修がほぼ終了し、1月からはHPから入力できる予定。

②支部友委員会(尾上)：配布された資料に基づき10月～12月の山行及び10月の支部友ミーティングについて報告。朝明ミーティングは大盛況のうちに終了。12月の忘年会は常務委員の皆様も是非参加を。

③山行委員会(鈴木)：配布された資料に基づ

き、10月～12月の山行について報告。12/14には忘年山行を実施予定。損害賠償責任保険について各委員会と検討中。3/23にリーダー会議を実施予定。

④亀の会(加藤)：配布された資料に基づき8月～12月の活動について報告。損害賠償責任保険について検討中だがもう少し詳細のわかる資料を希望する。亀の会を退会された方で「O亀の会」を発足。歩こう会や忘年会に参加。60山ラリー支援の山行を決め、各山行毎の担当者を決定した。

⑤猿投の森づくり委員会(和田)：配布された資料に基づき10月～11月の活動について報告。森の探検隊は幼稚園児を含む107名もの参加者があった。12/21に納会と餅つきを今年も実施。多くの方の参加をお待ちしている。

⑥東海ユース(服田)：配布された資料に基づき11月～12月の活動について報告。12/8の委員会には本部の野澤副会長が参加予定。

⑦支部報編集委員会(星)：160号の記事について配布資料のとおり。未提出の方は11/末までに提出を。

⑧青年部(鎌倉)：先月は西表島の沢登りを実施。今後の活動として雪がいたら雪上訓練を予定している。

⑨東海学生連盟(草野)：11月～12月の山行について報告。11/16～17日本山岳会学生部のクライミングマラソン大会に10名参加。1/5各大学へ声をかけ新年懇親登山を実施予定。雪山をやらない学校もあるため継鹿尾山を予定。加盟以外の大学にも参加を呼び掛けている。12/28～1/7一部のメンバーが早月尾根へ行く予定。11/8総会が無事終了。皆様からの寄贈品を分けさせていただいた。寄贈いただいたことに感謝する。

⑩登山学校運営委員会(榊)：配布資料に基づき11月～12月の山行及び机上講座について報告。12月より山田副支部長に講師をお願いし、SL・特待生を対象に指導者育成研修を6月までの7か月間実施予定。

⑪自然保護委員会(井藤)：配布された資料に基づき2020年度の活動予定等報告。

⑫ボランティア委員会(尾上)：配布された資料に基づき10月～11月の活動について報告。イベントが多かったが無事終了。補導委託登山について岐阜からも実施したいとのこと先日説明を行った。

⑬遭難対策委員会(山田)：登山届の提出状況

は配布資料のとおり。グレード3は0件。救助隊活動規定、要領の見直しを行った。分量が多いため後日メールで配布するので、確認、ご意見等いただきたい。

⑭写真展実行委員会（山内）：配布資料に基づき10月～12月の撮影山行について報告。写真撮影勉強会は11/25に香嵐渓にて実施。写真展の作品応募受付中だが、目標とする80点にはまだ余裕がある。是非応募を。

⑮技術向上委員会（片岡）：1/25にテーピング講座と体の構造の講座を実施。是非参加いただきたい。

2. その他

年次晩餐会について（佐野）：現在18名の参加申し込みがあるが、明日メ切のため、参加される方は申し込みを。

出席：佐野、片岡、山田、尾上、和田、鈴木、榊、服田、加藤、井上、星、毛利、石田、井藤、鎌倉、山内、草野

ルーム日誌

9月

- 2（月） 支部友委員会
- 3（火） 県岳連/TNCC会
- 4（水） 青年部
- 5（木） 写真展委員会
- 6（金） 古道塩の道
- 7（土） 東海ユース運営委員会
- 9（月） 登山学校運営委員会/東海ユース
- 11（水） 60山ラリー実行委員会
- 12（木） 自然保護委員会
- 16（月） 図書委員会、読図会
- 17（火） ボランティア委員会
- 18（水） 山行委員会/総務委員会・
正副支部長会議
- 19（木） 東海学生連盟
- 20（金） 森の音楽祭実行委員会
- 24（火） 遭難対策委員会
- 25（水） 常務委員会
- 26（木） 技術向上委員会
- 28（土） 猿投の森運営委員会
- 30（月） 支部報発送

10月

- 1（火） 県岳連/TNCC会
- 2（水） 青年部
- 3（木） 写真展委員会
- 4（金） 古道塩の道
- 7（月） 支部友委員会

- 10（木） 自然保護委員会
- 14（月） 登山学校運営委員会
- 15（火） ボランティア委員会
- 16（水） 山行委員会/総務委員会・
正副支部長会議
- 17（木） 東海学生連盟
- 18（金） 森の音楽祭実行委員会
- 21（月） 図書委員会/読図会
- 23（水） 常務委員会/支部報編集委員会
- 24（木） 技術向上委員会
- 25（金） 亀の会/遭難対策委員会
- 26（土） 猿投の森運営委員会
- 29（火） 60山ラリー実行委員会

11月

- 1（金） 古道塩の道
- 4（月） 支部友委員会
- 5（火） 県岳連
- 6（水） 青年部/TNCC会
- 7（木） 写真展委員会
- 11（月） 登山学校運営委員会
- 14（木） 自然保護委員会
- 18（月） 図書委員会/読図会
- 19（火） ボランティア委員会
- 20（水） 山行委員会/総務委員会・
正副支部長会議
- 21（木） 東海学生連盟
- 22（金） 森の音楽祭実行委員会
- 23（土） 猿投の森運営委員会
- 26（火） 60山ラリー実行委員会
- 27（水） 常務委員会
- 28（木） 技術向上委員会/遭難対策委員会

会員異動

入会：阿部正美(16544) 勅使河原佳孝(16546)

退会：伊與田忠昭(15318)

物故：橋村一豊(5821) 石川富康(7191)

お詫びと訂正

支部報第159号 10ページ中の写真キャプションが間違っていました。正しくは「ピサンピーク(6,091m)に登頂」でした。お詫びして訂正いたします。



INFORMATION

【総務委員会からのお知らせ】

◆東海支部新年懇親会のご案内◆

日 時：令和2年1月19日(日) 受付16時30分～

講演及び新年懇親会17時00分～20時15分

場 所：今池ガスビル 8F ガス燈

名古屋市千種区今池1-8-8

TEL 052-732-2944

地下鉄東山線今池駅下車 10番出口から1分
内 容：

第1部 挨拶、講演 (17時～18時)

・支部長挨拶

・講演 NHK： 廣瀬 学氏

第2部 懇親会 (18時15分～20時15分)

・懇親会費 5000円

出欠の返事が未だの方は、至急ご連絡下さい。
メールでの連絡も可とします。

アドレスは:tki@jac.or.jpです。

新年会には、支部友、青年部、東海学生連盟、
東海ユース、登山学校の方々も参加できます。

総務委員長 毛利 邦男

【技術向上委員会からのお知らせ】

「テーピング実技と体の構造」講習会を開催します。

第1部では、痛みや捻挫の発生防止などに有効なテーピング実技の講習会を行います。第2部では体の中でも、歩行や登攀運動を支える関節等の腱や筋肉・骨の構造と仕組みを勉強する講習会とします。

日時：2020年1月25日(土)

13:00～16:00 (12:45開場)

第1部 13:10～14:30

「登山に役立つテーピング」実技講習

講師：佐藤丈能先生(至学館大学短期大学
部体育学科専攻科長・教授

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー)

第2部 14:45～15:50

「体の構造」関節をメインとするお話。

講師：三浦裕先生(至学館大学栄養学科
教授、国際山岳医)

場 所：OMCビル4F大講堂

申 込：

●第1部の「登山に役立つテーピング」実技講習希望者は、申込が必要となります。参加者は

チームに分かれ、実際にテープを巻く講習が含まれます。教材は主催者で用意しますので不要。動きやすい服装で参加下さい。先着40名とします。

申込先：技術向上委員会 今津

(imazu.eitirou@maroon.plala.or.jp)

締切：2020年1月15日(水)

●第2部の「体の構造」の受講は申込の必要はありませんので、直接会場にお越しください。

技術向上委員長 片岡泰彦

【写真展実行委員会からのお知らせ】

第17回東海岳人写真展

2020山と自然のパフォーマンス

開催期間：3月17日(火)～22日(日)

9時30分～18時(最終日は17時まで)

会 場：名古屋市民ギャラリー栄

中区役所8階 第9・第10展示室)

☎052-265-0461 地下鉄栄駅12番出口が便利です。

展示数：80点程(全紙)

特別出品：登山家・医学博士 今井通子女史

共催：中日新聞社

後援：愛知県教育委員会 名古屋市教育委員会
東海テレビ NHK名古屋放送局

出品写真募集中

現在、出品写真を募集しています。締切は令和2年1月15日です。まだ日にちがありますので、次の3点の資料を支部ルームに郵送あるいは届出よろしくお願ひします。

① 応募申込書

② データ(ネガ、CD、USB、SDのうち1点)

③ 2L写真一枚

以上を山内委員長までメール：

yamauchi@orihime.ne.jp でお知らせください。

写真展実行委員長 山内 薫

編集後記

あけましておめでとうございます。昨年秋より60山ラリーを皮切りに、支部60周年記念事業が始まりました。お祭りが大好きな我が支部です。国内外の登山やトレッキングを初め記念出版など主たる計画が目白押しです。

記念事業について会員諸兄の活発な提案を期待しています。

星 一男

海外トレッキングのパイオニア!

世界の山旅を手がけて48年
ALPINE TOUR SERVICE 株式会社

“山仲間オリジナルツアーを企画しませんか?”
説明会にお伺いします。お気軽にご相談下さい

名古屋 052-581-3211 アルパインツアー 検索
〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-23-2 (第3千福ビル3階) www.alpine-tour.com

***** OMC *****

住いのコンサルタント

(有) 富士見企画

〒460-0014
名古屋市中区富士見町8番8号

SINCE 1975

mont-bell

ウェア・ギアに
遊び心もそろえて
お待ちしております

アウトドア用品は、
機能的なアイテムが豊富に
そろうモンベルストアへ。



- 岐阜店 岐阜県岐阜市柳津町丸野3-3-3カラフルタウン エミノワ内
- 各務原店 岐阜県各務原市那加萱場町3-8 イオンモール各務原 2階
- 豊橋店 愛知県豊橋市飯村町西山7-645
- 長久手店 愛知県長久手市片平1丁目901
- 名古屋店 愛知県名古屋市中区栄3-18-1ナディアパークロフト 6階
- ららぽーと名古屋みなとアクルス店 愛知県名古屋港区港明2-3-2
ららぽーと名古屋みなとアクルス 1階
- 新静岡店 静岡県静岡市葵区鷹匠1丁目1-1新静岡セノバ 4階
- ららぽーと磐田店 静岡県磐田市高見丘1200ららぽーと磐田 1階
- 浜松店 静岡県浜松市東区上西町985-1 浜松プラザウエスト内
- 長島店 三重県桑名市長島町浦安368
三井アウトレットパークジャズドリーム長島 2階
- 鈴鹿店 三重県鈴鹿市庄野羽山4-1-2イオンモール鈴鹿 1階
- モンベルルーム御在所店 三重県三重郡菟野町大字菟野8625
(御在所ロープウェイ前)

豊橋店・名古屋店・長久手店・長島店では、アウトレット商品も取り扱っています。

【お問い合わせ】 モンベル・カスタマー・サービス ☎0088-22-0031 / TEL.06-6536-5740
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

オフィスに関する悩み事、丸天産業が全て解決します。

ファシリティマネジメントによるオフィス構築や
デザイン、インテリアやセキュリティなど
オフィスのすべてが揃っています。

オフィスのお困りごとを丸がかえでお応えいたします。



郵送無料 Honesty

コンサルティング事例集

オフィスに関するお悩み事の解決事例が載っています。
お申込みは下記までお電話ください。

株式会社 丸天産業

本社 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄5丁目10-34
TEL: 052-241-3686 FAX: 052-241-0457

法務相談は行政書士にお任せください!

相続 会計 許認可

1時間無料相談

あなたの不安を解決に導きます

遺言書、遺産分割協議書、
法定相続情報一覧図作成、任意成年後見の相談など



西山行政書士事務所 ☎052-961-6506

名古屋市中区丸の内3-21-21丸の内東桜ビル1004 久屋大通駅 徒歩1分
www.nygs-office.com

企画・デザイン・印刷



株式会社 浅井隆文社

〒461-0044 名古屋市中区矢田東1番22号
TEL (052) 719-0677 FAX (052) 719-0678
E-mail: info@asai-rbs.co.jp